



medical informatics

健康・医療データの 標準化と利用促進に関する私見

黒田知宏

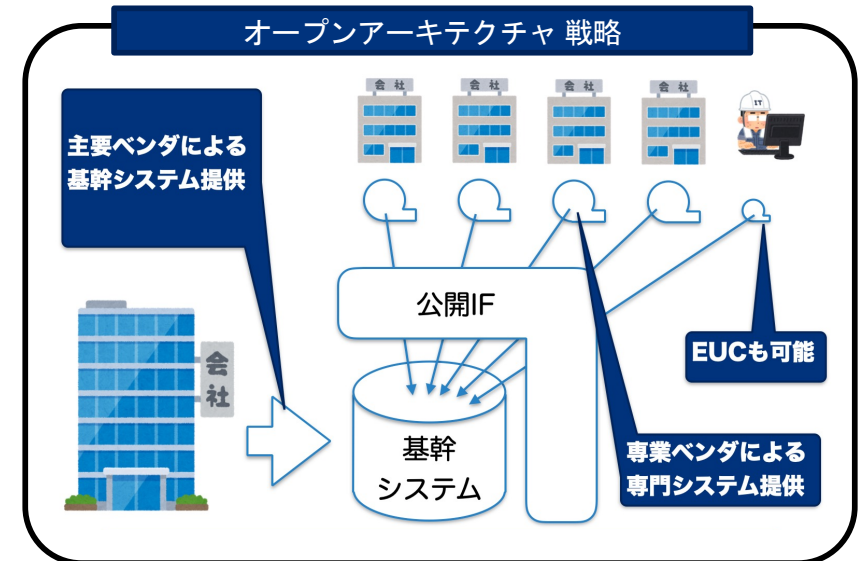
京都大学医学部附属病院 医療情報企画部





標準化を考える幾つかの視点

- データ工学的視点（科学的視点）
 - **データ = ラベル + 値 + 単位**（+計測状況(4w1h)）
 - ラベルの標準化：同じ現象に 同じ名前を付ける：マスタ化
 - **値 の標準化**：同じ物質から同じ値 を得る：精度管理
- ソフトウェア工学的視点（経済的視点）
 - 共通部品の再利用 と カスタマイズ性の確保
 - 「強固なコア」と「API」で「アジャイル開発」
 - **「今ある」ものを「再利用」する（同じものを作らない）姿勢** が重要
- システム工学的視点（社会的視点）
 - インターオペラビリティの確保
 - RWD の二次活用
 - 「標準化」されたデータが「出力できる」ことが重要



情報公開されたコアシステムのロックインはむしろ低コスト



「今ある」「標準的な」「データ出力方式」の「最大活用」



レセプト：標準的な医療データ出力規格

- 対象
 - 全保険診療の医療行為・処方・高額な医療材
- 標準化
 - ラベル： **レセプト電算コード** で標準化
 - 病名 (ICD10)・薬剤・検査を含む
 - 値： 投薬量は標準化済
- 批判
 - アウトカムのデータが無い



「標準的」なアウトカムを追加提出させれば良いのでは？

- 検査結果
 - ラベルの標準化： 医学的に必要な粒度で定義 (**JLAC**検査名称程度)
 - 値の標準化： **外部精度管理** (値の標準化) を制度的に義務づけて
- 死亡情報： 死因をコード化した上で
- 「疾病依存」「治療法依存」なアウトカムはそれぞれの学会で
 - 基礎情報であるNDBと「ID連結」出来て、「公的提供」できればよい
 - がん登録・NCD……

